

近代における和語動詞の主要表記の交代

高橋雄太

本発表では、近代語の雑誌コーパスを用いて、近代において語に最もよく使用される漢字表記(主要表記)が経年によって別の漢字表記に交代する語を網羅的に抽出し、何故そのような変化が起こったのか、その要因を明らかにすることを目的とする。本調査では近代雑誌コーパスにおける 100 万語あたりの相対頻度 48 以上の和語の動詞 259 語を対象とし、主要表記が交代する語 38 語(14.8%)を抽出した。これらの語のすべてについて、変化の過程を分析してその要因を考察する。

分析の方法としては、はじめに、それぞれの語の意味を分析し、共起語や格の表示の異なりから意味の区分を立てた。その意味の区分に従って近代語の雑誌コーパスの用例を振り分けて、意味と表記の結びつきを観察した。例えば、イレルという語には「物を箱にイレル」のような〈外部から特定の範囲・場所に移す〉意味、「明りをイレル」のような〈ある状態に達するようにする〉意味、「願いをイレル」のような〈受け入れる〉意味が認められ、これに従って3つの意味の区分を立てて、近代語の雑誌コーパスの用例を振り分けた。その結果、明治中期の段階で優勢であった〈受け入れる〉意味が勢力を減じ、〈外部から特定の範囲・場所に移す〉意味が勢力を増す変化が観測でき、またこの意味の勢力図の変容に連動して、〈受け入れる〉意味と結びつきの強い「容」が勢力を減じ、〈外部から特定の範囲・場所に移す〉意味と結びつきの強い「入」が勢力を増すことを確認した。このような作業を 38 語全てに行った結果、38 語中 34 語に、意味の勢力図の変容に連動する主要表記の交代が確認でき、このことから、近代において和語動詞の主要表記が交代する現象の直接的な要因は、語の持つ意味の勢力図の変容であることがわかった。また、近代においては表記の変化と語の意味の変化は連動しており、語を表記するときには、語の意味と関連付けて表記を選択していたことが考えられた。